

## 巻頭言

### ご挨拶

#### 古在豊樹 日本農学アカデミー会長

今年の7月19日に開催されました日本農学アカデミー(以下、当アカデミー)の総会において、平成26年度の会長をおおせつかりました古在豊樹です。

三輪睿太郎前会長ならびに多くの理事の皆様にご指導とご協力をいただきながら、本アカデミーの今期の運営をはじめたところです。今後とも、会員の皆様のご意見を尊重しつつ、当アカデミーの理念と目標を実現すべく微力を尽くす所存ですので、よろしくお願ひ申し上げます。

当アカデミーは、平成11年(1999年)に発足しましたので、今年で設立15年を迎えたこととなります。その間、農業を取り巻く状況は東日本大震災、異常気象の頻発など、また農学の状況は分子生物学の発展などで変わりましたが、当アカデミーの理念と目標はほとんど不変であると考えられます。

本アカデミーの目標は2に大別されます。1つは、農学徒の英知を結集し、農学の学術的ならびに社会的な役割と責務について産官学を横断した大所高所から分析、検討して、日本と世界の農学に関する学術体制や科学政策のあり方についての提言をまとめ、広く社会に公表することです。もう一つは、既存の専門分野に立脚しながらも、これにとらわれることなく未来志向の視点から農学と関連分野の研究や教育のあり方について多元的、総合的に審議し、もって社会が当面している地球規模の諸課題や人類史的な課題を解決する学術と科学技術政策を立案することです。

当アカデミーの会員は、日本学術会議会員、農学系の大学長、学部長等、国立試験研究機関の長等の現職および経験者等とする、と規約にあります。「等」には、民間研究所の研究所長や研究担当役員などが含まれ、実際、大いに活躍していただいていますので、この会員資格を修正すべきかどうかは今期の検討課題となるかと思ひます。

当アカデミーの理念と目標の実現に賛同する識者を新会員として勧誘し、当アカデミーの活動をより活発にすることも、当アカデミーの重要な活動の1つですので、会員の皆様のご協力をお願いいたしたく存じます。なお、当アカデミーは、科学技術政策の立案ならびに実施を客観的に扱える立場を貫くために、NGOでなければならないことが合意されています。

当アカデミーの今季の活動の1つとして、11月22日、東京大学弥生講堂において、公開シンポジウム「農学における分子生物学の発展と将来」を(公財)農学会との共催で開催させていただいたところ、多数のご参加をいただき、有意義なご講演と活発な討論がなされました。このシンポジウムは、同じテーマで当アカデミーが7月に開催したミニ・シンポジウムを拡大・深化させたものです。今後とも、会員の皆様のお力を借りて、シンポジウム以外にも、当アカデミーの活動を続けていきたいと思っております。

簡単ではございますが、以上をもちまして、会長就任のご挨拶とさせていただきます。